

## 44期(2018年度)の振り返りと45期(2019年度)の展望

### はじめに

2018年度は、春先から始まった米中の関税合戦による貿易摩擦により、企業の投資意欲が削がれた感はありましたが、株価は一時24000円台を付け、企業の設備投資は順調な動きを示し、緩やかな景気拡大を実感できる一年ではなかったかと思えます。

東京オリンピック開催に伴う関連景気もようやく関西までやって来たのか、関連資材の受注を頂く機会もありました。また、関西では55年ぶりとなる大阪万博の開催が2025年に決定し、明るい話題も多い年度でした。半面、日本漢字能力検定協会が発表した今年の漢字は「災」であったように、豪雨、酷暑、台風、地震と、この一年も多く自然災害に見舞われました。

2014年に広島県を襲った豪雨による土砂災害の復旧も一段落した昨年、またもや西日本豪雨災害が中国地方を襲い、200名を超える尊い命が失われ、今なお多くの方が避難生活を余儀なくされています。また、9月には、台風21号が猛威を振るい、その高潮と強風は和歌山から神戸に至る港に壊滅的な打撃を与え、漂流したタンカーが関西国際空港を閉鎖に追い込むなど、大きな影響を与えました。弊社の製造販売する浮棧橋にも影響があり、被害にあわれた皆様に心からお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

### 総括

44期の売り上げは前年度対比で一般建材部門が13%減の2億3848万円、製造直売が48%増の2億6277万円となり、トータル11%増5億126万円でした。また、営業利益は1024万円、経常利益は3680万円でした。

### 財務的側面

44期も財務指数は健全な数値を示しています。代表的な数値を以下に示すと、流動比率:884% 当座比率:707% 固定比率: 54% 自己資本比率:91% 売上高経常利益率:6.8%となり、依然企業としての高い安全指数で推移しています。

榛原工場においては、倉庫として利用していた建物を増改築し、従来の利用者様と新たに増額した家賃契約を結ぶことになりました。また、長期にわたって使用を止めておりました立体自動倉庫を解体して平地とする計画をしておりましたが、解体に着手する直前に利用者様が見つかり、期中より家賃収入を得る事が出来るようになりました。これにより本社工場以外に所有する室生工場と榛原工場において、計6社様と賃貸契約を結ぶことができ、利用していない建屋が全て無くなりました。

今後も健全な財務指数と理念経営が全ての利害関係者様に示せるよう、全社一丸となっ

て努力して参ります。

### 製造部直売の側面

44期の製造部直売売上高は2億6277万円となりました。2013年度を境に4期連続で売上が減少傾向にありましたが、当期は前年比8562万円、48.3%の増収となり、2015年度とほぼ同額の結果となりました。44期の期中より、新たに某大手メーカー様の防災商品のOEM製作を開始し、売上が大きく押し上げる結果となりました。

一昨年の九州北部豪雨災害に続き、昨年は平成30年7月豪雨によって中国地方が甚大な被害を受け、さらに平成30年北海道胆振東部地震によっても大きな土砂災害が発生しました。国交省は本年度予算を前年比約1.3倍とし、治山治水事業に特に大きな予算を割り当てており、国を挙げて防災・減災へのさらなる取り組みを進めています。我々の目の前の受注増に直結するとは言い切れませんが、国土と国民の生活を守るための事業に、今後もより深く携わって参りたいと願っております。

### 建材販売の側面

44期の売上げは、2億3848万円と前年度対比13%減となりました。

44期は得意先様、製品などを精査し、利益の低い製品を抽出し、得意先様との交渉を重ねた一年でした。

長らく継続的な受注を頂いておりましたO社様においては、43期に4000万円近くあった受注が物件の一段落と共に44期は2000万円と半減いたしました。45期は昨年同様2000万円程度の売上になると考えています。

年初からお取引して頂く事になりましたY社様は取引初年度から687万円の受注を頂き、今後も増加していくと予想しています。また、45期よりお取引頂く事になりましたK社様においても1月の受注は212万円を超え、有望な新規取引先となる予感がしています。

公共预算に左右されない製品として開発された鋼製浮棧橋も、44期は順調に売り上げを伸ばし、2100万円以上の受注をすることが出来ました。大口物件が無かったにも関わらずこの数字を残せたことから、浮棧橋メーカーとしての知名度が上がり、受注件数が大幅に増加していることを実感しています。45期は、昨年の台風被害の復旧と、棧橋メーカーとしての知名度もアップしてきている事から、順調な伸びが期待できます。また、鋼製鳥居も318万円の受注があり、順調に新製品としての頭角を現してきています。45期は1基800万円以上の大型鋼製鳥居を受注できることも決まっており、新製品開発の重要性を改めて感じています。

### 人的側面

44期は、製造課で正社員4名、管理課でパート職員を1名補充し、45期は5名増のスタートとなりました。新たに弊社の力になって頂いたメンバーは、能力が高く、まじめで向上

心を強く感じる事から、今後弊社の大きな戦力となって頂けるものと確信しています。

45 期は、外国人技能実習制度の改革により、実習期間が 4 月より 3 年から 5 年に変更になる事が決定し、オールジャパンで挑んで来た弊社にとっても制度導入検討に値すると考え、外国人実習生の受け入れを決定し、受け入れ態勢の整備を進めています。

景気拡大の様相から 2018 年度は企業の有効求人倍率は 1.6 倍を超え、人口減少も相まって、人手不足が叫ばれる昨今、弊社においては求人に対して十分な人材に応募して頂きありがたく思っています。これも、地道な社会貢献を継続的に続けてきたお陰と感謝しています。

## 製造設備・施設側面

44 期の主たる設備投資として、小型バンドソーを約 500 万円の新型機種と入れ替えました。お客様の多様なニーズに素早くお応えできるよう、斜め切り等の多様な切断が容易になりました。

また、新棟増設に向けて、造成工事を約 400 万円かけて行いました。45 期は基礎工事をし、どの様な建屋にするかを検討し、建設に着手したいと考えています。

榛原工場においては、倉庫として使用していた古い建屋を取り壊し、1200 万円を掛けて新しく建屋を増設し、現在の利用者様に新たな契約を結び利用して頂けるように致しました。

さらに、入出荷の多様化に伴い、ヤード内においてトラックへの荷物の積み込みや荷下ろしにリフトの不足を感じる場面を見受ける事が多くなったことから、今期はフォークリフト一台の増車を行います。

## 終わりに

45 期は、平成の 31 年間の時代に幕が下ります。平成を振り返ってみればバブルの崩壊に始まり、リーマンショックや金融機関の破綻、また原油価格に至っては 1 バレル 130 ドルの時代も経験した事により、エネルギー事情も大きく変わって、再生可能エネルギーへと大きく舵を切り始め、多くの電気自動車が街を走る時代となりました。自然災害では阪神淡路大震災や東日本大震災など、「想定外」が日常化する、激動の時代であったかと思えます。

そんな激動の時代にも、まじめにものづくりと向き合い、お客様に喜んで頂ける製品を心を込めて送り出し続けたからこそ、景気の波に飲み込まれることなく今があると感じています。

今期は、消費税 10%への増税もほぼ決まっており、個人消費への影響が懸念されている事や、人口減少に伴う経済活動の縮小、高齢化社会に向けて社会保障費が増加していくことなど、閉塞感は否めません。しかし、弊社の主たるマーケットである土木建設業界においては、高度成長期に作られた建物や道路、橋や上下水道などの老朽化に伴う様々な工事を本格化せざるを得ない状況があります。また、自然災害の大型化・激甚化による防災関連工事の

拡大から、売上高の増加が見込める時代が来るのではと感じています。

どの様な時代になろうとも、今まで続けてきた「まじめにものづくり」を合言葉に、全社一丸となって誠心誠意 精進して行く所存です。今後とも皆様のご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

あなたに出逢えて本当に良かった

代表取締役社長 植平秀次